

「初めてのCAD データ管理&ここまでできる！モバイルでのCAD データ活用」セミナー

Autodesk Vault 2015

AutoCAD ファミリーのデータ管理

オートデスク株式会社 技術営業本部

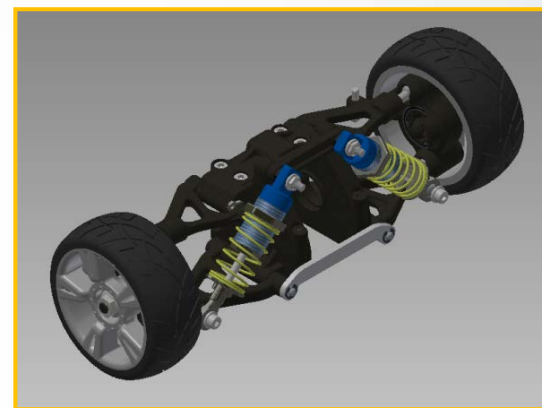
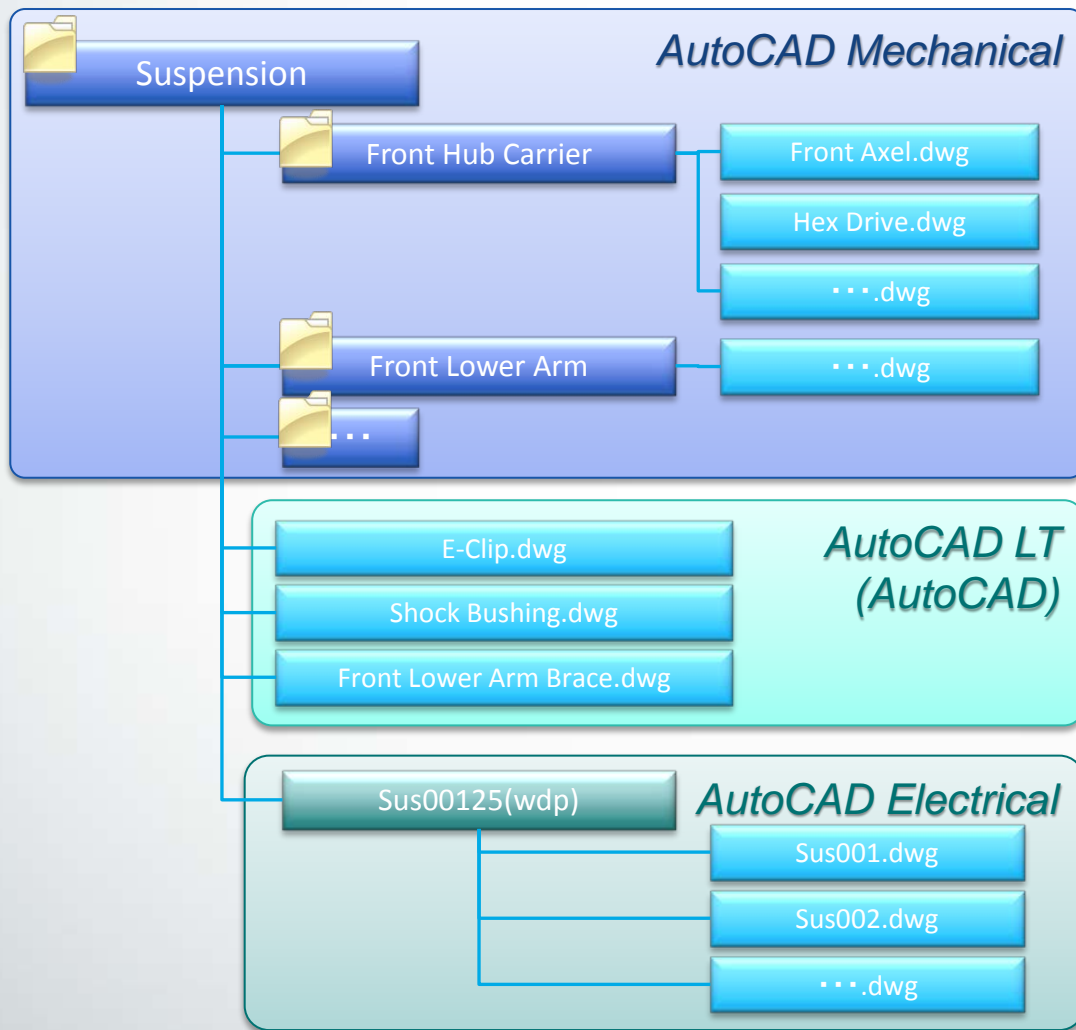
2014年4月





2D データ管理の課題と解決策

- BOM を一階層毎しか確認できず、製品全体の構成がみえない。
→ アイテムマスターによる統合部品表管理
- 部品を変更したいが BOM の逆展開ができず、設計変更の影響範囲を確認できない。
→ アイテムマスターによる参照先(影響範囲)の確認
- 表題欄情報を変更するのに図面を開かなければいけない。
→ Vault Explorer での一括編集

本日のデモデータ



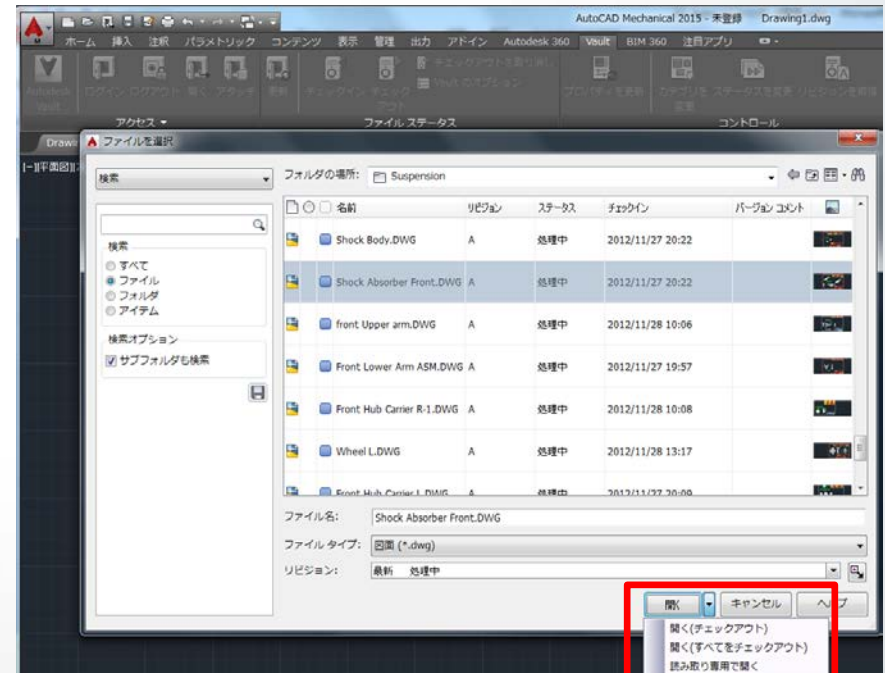
-  : フォルダ
-  : 2次元図面 (組図、部品図)
-  : AutoCAD Electricalプロジェクトファイル

AutoCAD からのデータ検索

- AutoCAD Add-in から Vault のデータを検索して、直接ファイルを編集できます。

Vault Add-in からの検索

- Vault Client を起動することなく、直接 Vault のデータを検索できます。
- 検索したデータを読み取り専用、もしくはチェックアウトで開けます。

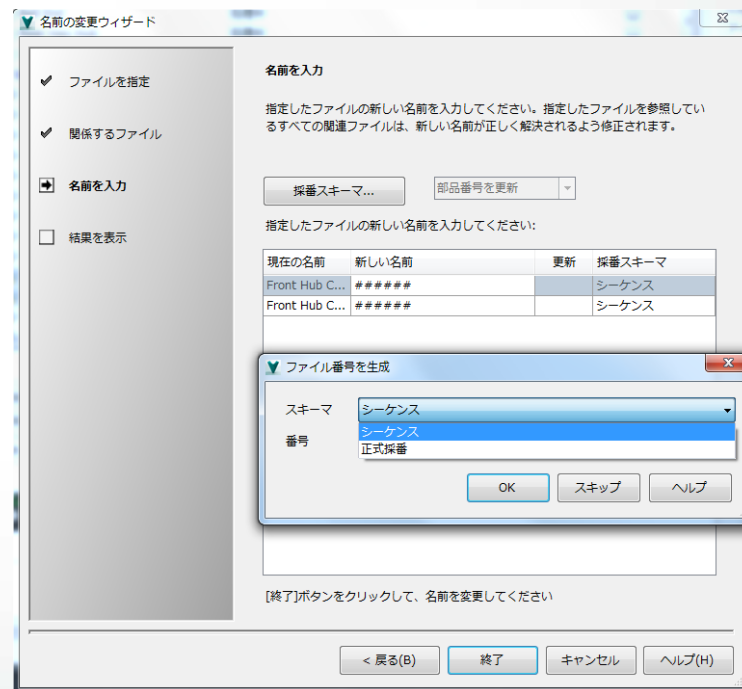


採番機能

- Vault に登録されたファイルのファイル名を特定の採番ルールで変更できます。

自動採番機能

- ・任意の採番ルールを事前に定義してファイル名を変更できます。
- ・複数の採番ルールを管理できます。
- ・複数のファイルを纏めて採番できます。

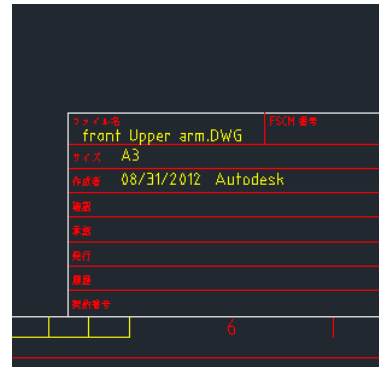


表題欄の連携

- AutoCAD の表題欄のプロパティを Vault に自動登録できます。

表題欄情報の登録

- AutoCAD 図面の表題欄情報を Vault のプロパティとして登録できます。
- 設定した表題欄情報を Vault で検索できます。
- AutoCAD 図面を開かなくても属性を更新できます。



The image shows the 'Properties' dialog box in Vault for the file '000002-R.DWG'. The properties are organized into sections:

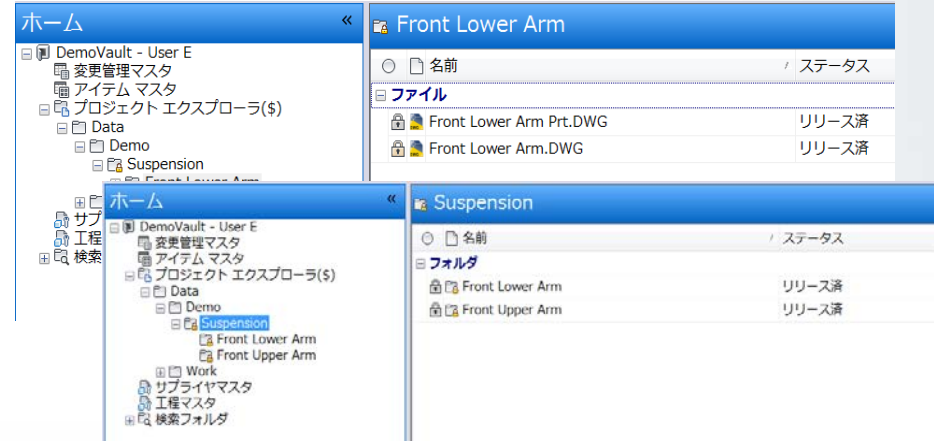
プロパティ	
最新バージョン	True
作成者	Administrator
製作者	Administrator
添付の数	0
非表示	False
複製ファイル	True
分類	なし
変更管理によるコントロール	False
変更管理のステータス	
変更日	09/03/2012 17:53
名前	000002-R.DWG
ユーザ定義	
エンジニア	
エンジニアリング承認者	
キーワード	
コスト	
コメント	Data Set For ACM DEMO
タイトル	front_upper_arm
プロジェクト	
マネージャ	
会社	
確認者	
在庫番号	
材料	
作成者01	Autodesk
製造承認者	
設計者	
説明	
表題	ADJ_Suspension
部品番号	ADJ_Suspension

フォルダによるアクセス制御

- フォルダ単位でライフサイクルを設定し、データのアクセスを制御できます。

フォルダによるアクセス制御

- ・フォルダにライフサイクルを設定し、任意のタイミングで公開・非公開を制御できます。
- ・ステータスベースのセキュリティでプロジェクトのリリースとアクセスを管理



CAD 部品表連携 (アイテムマスター)

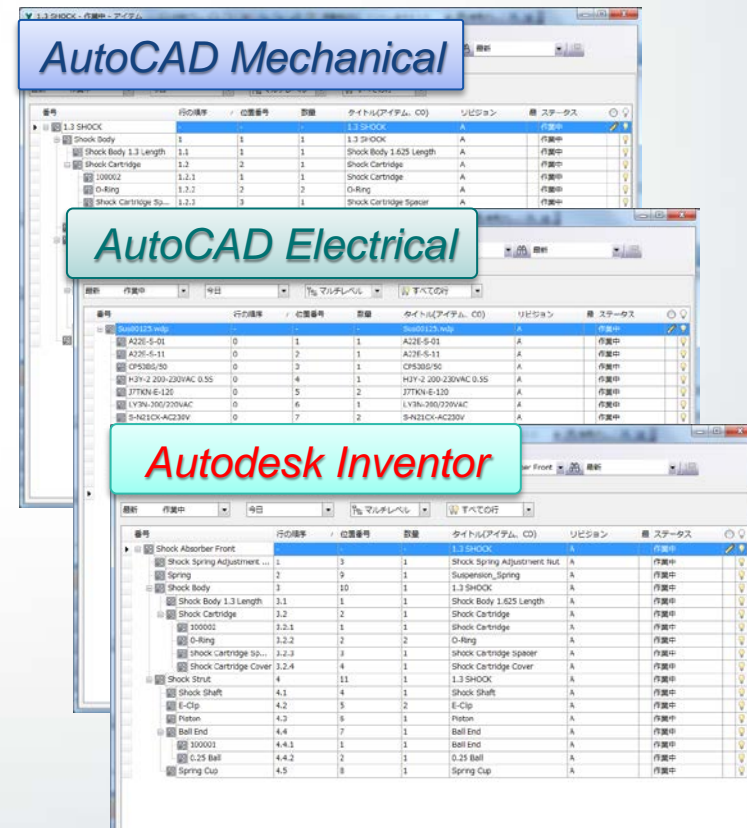
- AutoCAD Mechanical/Electrical、Autodesk Inventor の部品表を連携し、統合部品表を作成できます。

アイテムとは

- アイテムには設計変更やパーツ、アセンブリ、図面、ドキュメント、部品表 (BOM) を関連づけられます。
- アイテムは他システムと連携する場合や、関連付いてる情報を一意に識別するために管理します。

部品表の作成

- AutoCAD Mechanical: 部品表機能の情報を取得して複数レベルの構成を作成します。
- AutoCAD Electrical: プロジェクトファイルから構成情報を取得して1レベルの構成を作成します。
- Inventor: Inventor の構成情報をマルチレベルで作成します。
- 登録済みの部品番号がある場合は自動または手動で紐付けられます。



カスタムオブジェクトの活用

- 新しいカスタム オブジェクトを定義して、ビジネス プロセスに適合する独自のコンテンツを管理できます。

独自のコンテンツを管理

- ・ドキュメント、アイテム、ECO 以外の任意のデータタイプを作成できます。
- ・任意のオブジェクトで参照リンクを張り、階層化が可能



